

第2学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 9割の児童が自分なりの表現を楽しむことができる。
○ 水彩絵の具を適切に扱える基礎が身に付いた。
- 課題** ▼ 全ての児童が自分なりの表現を楽しめるようにする。
▼ 水彩絵の具を適切に扱い表現できるようにする。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感性に自信をもち、表現することができる。
- ◇ 自分と友人の感性や発想の違いを認め、価値付け合うことができる。
- ◇ 素材の質感や特性から発想し、自分なりの表現をすることができる。
- ◇ 水彩絵の具を適切に扱い、表現することができる。
- ◇ はさみ・のりの道具を適切に扱い、工作技能を働かせ表現することができる。

具体的な改善策

- 毎時間、感性や発想のよさを見つけ、全ての児童に声を掛け価値付けていく。
- ICTを活用し、全体でモニター鑑賞する場面を設け、友人の表現を認め合う意識を醸成する。
- 全ての児童の発想が表現できる題材を、開発・改善し提示する。
- 素材の変化を感じられる活動を多く体験させる。
- 水の調整や筆の扱い方などを、個別で支援する。
- ICTを活用し、のりしろの構成を視覚的に理解させる。

達成目標

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。